

『区民の方にインタビュー』全文版



大幸東団地の中にある大幸第二公園。非常に多くの人が行き交うにも関わらず、公園内はとても綺麗な状態です。それには市民の活躍が大きく関わっています。その中の一人、小宮山久子さんにお話を伺いました。東土木だよりではお伝えしきれなかったインタビュー全文をお届けします。

「始まりは「何とかしなければ！」

―活動内容と活動を始めたきっかけを教えてください。

私たちは大幸第二公園で、近くの住民がやれること、行政が私たちにやってもらいたいことをしています。

元々、ゴミが落ちてるのが嫌いで、団地内を散歩しているときに見つけたら拾うようにしていました。

今ではそれに加え、落ち葉を集めたり、花壇のお手入れをしたりしています。

自分の好きな時に、自分の調子に合わせて楽しく行っています。

10年以上活動していますが、最初は1人でした。

公園の近くに住むのが夢でしたが、当時は夏になると広場が草だらけで、蚊も多かったです。

何とかしなければと思い立ち、草取りとゴミ拾い、側溝の掃除を始めました。

やり始めたらいろんなところが気になり出し、活動範囲が広がっていききました。

6〜7年前、東土木から、愛護会を設立して公園の南側にある花壇の世話をしてほしいと相談

を受けました。その当時、花壇は荒れていて、勝手に野菜を育てている人までいました。

花の手入れするには毎日の水やりが必要ですが、一人では旅行にもいけなくなってしまうので、一緒に活動してくれる人を探しました。その時に声をかけたのがAさんです。現在はAさんと2人で花のお手入れをしています。

愛護会設立には5人以上必要なので、グラウンドゴルフの団体さんと一緒に愛護会を設立しました。グラウンドゴルフの団体さんは主にグラウンドゴルフをしている広場で愛護会活動をしてもらっています。

(編集者注：大幸第二公園はかなり大きな公園で、ナゴヤドームのグラウンド面積の1.4倍の広さがあり、それぞれの活動場所はかなり離れています)

Aさんは草花の手入れが大好きです。以前、東土木の職員から感謝の言葉をもらった際、「私の方こそ感謝しています」と言っていたほどです。一緒に活動をしていると言っても、2人の分担当が決まっています、お互いの活動に干渉はしていません。

子供たちの成長を実感

―活動のモチベーションややりがいは何ですか。
始めた当初は、変わりが扱いされていました。
草はぼうぼう、ゴミだらけが当たりまえでしたが、自分ができる範囲で綺麗にしました。
誰かに協力を求めることはしませんでした。
10数年続けるうちに、変わりが扱いされなくなりました。

活動する中で、子供たちの成長も見守ってきました。今では子供たちとすっかり顔なじみです。子供たちに、自分のゴミは持ち帰るように言っていると協力してくれますし、周りの友達も協力するようになりました。すると、子供たちがゴミを捨てなくなり、年々公園が綺麗になってきています。活動への最大の協力者は子供たちです。近年は、私たちの活動の認知度が上がってきていて、活動がますます楽しくなっています。花が咲いて、公園が綺麗になるとともに子供たちの態度まで変わってきました。言葉づかいが良くなり、あいさつなどの礼儀正しさも身につきました。
愛護会活動が大変だとか、辛いと思ったことはありません。Aさんも市に感謝しているくらいで、今が一番楽しいと言っています。

愛護会活動は行政との協働で

―東土木事務所との関わり方はどうですか。
公園愛護会でやれること、市が公園愛護会にやってほしいことを東土木の職員によく聞いて、その範囲内で自由に活動しています。新たに活動したいことがあれば、その度に東土木の職員と相談しながら進めています。

また、東土木から花の種や苗を愛護会としてもらうので、植える位置や植え方を東土木の職員と相談して育てています。

愛護会の設立前、名古屋市がどうやって公園を管理していて、なぜなかなかきれいにならないのかを調べました。その中で自分に何ができるかを考え、ただのお節介にならないよう、ボランティアとしてやっていいことややっていけないことを調べました。

家の目の前に公園があると、いろいろ思うところがあるので、やった方が良くと思うことは市に提案しています。

また、公園の前に住んでいるので、名古屋市からの委託業者が清掃等を行う時に、直接お願いすることもあります。ただ、その際には無理の



ない範囲で、市との契約の範囲内で行えるちょっとしたことをお願いしています。

市にもいろいろなことを徐々に改善していただいて、公園は綺麗になりました。ボランティア・子供たち・東土木の職員、みんなで作り上げたきれいな公園だと思っています。

行政には、ボランティアは窮屈なものではないことを、もっと市民にPRしてほしいです。

人は人。無理強いはいしない

「ボランティア活動を楽しむ秘訣はなんですか？」

私たち2人は行政の秩序に則って、のびのびと自由にやりたいことをしているの、精神的にも肉体的にも満足しています。ですが人に強要はしません。人は人、なので。

何時からとか、何人必要とか決めないで、自由に楽しくボランティア活動すればいいと思います。大幸第二公園でも、個人でボランティア活動している人が何人もいます。その人たちも自分のやれる範囲で、自分の意志で活動しています。

そういった活動はそれほど難しくなく行えるものです。

私は以前、インドネシアに滞在していた時に、日本語を教えるボランティアをしていました。

この団地に住んでからは、団地内の高齢者のためにおかずを提供するボランティアも行いました。

今までボランティア活動のために車や電車を使って出向いたことはありません。いつも無理なく身近な場所で活動することもボランティア活動を楽しむポイントではないでしょうか。



緑政土木局補修班イメージキャラクター

「どりょくん」

ボランティア活動に一歩踏み出すことは決して難しいことはありません。

名古屋市全体を綺麗にしようとか、大それたことを考えているのではなく、身近な公園を綺麗にしたいというだけなのですから。

昔、ある団体に、公園を清掃する活動があれば参加したいと相談したら、そのような活動はなく、「そんなに気になるなら自分でやってはどうですか?」と言われました。最初は少し腹が立ちましたが、次第に、一理あるな、と考え直しました。ボランティア活動は、気になる人がやればいい。強制されるものではないのです。

ボランティアで「なんでも人の人はやってくれないだろう」と考えるのはもっともいけないことだと思います。

ボランティアは中高年の生きがい

「最後に、区民のみなさまに一言お願いします!」
いままで活動してきたことが、積みり積もって私の心の奥に残っています。理屈ではなく、無意識に精神的に安定しています。

ボランティアは自由にできる楽しいものであり、中高年にとっては生きがいにもなります。ボランティアに一歩踏み出すことは決して難しくありません。少しずつ活動する人が増えれば嬉しいです。

